

第2回 School部会フォーラム 学校での突然死ゼロを目指して ～小学校からの教諭による救命教育の推進～を開催

第2回 School部会フォーラムを振り返って

日本AED財団理事 桐淵 博



第2回School部会フォーラムがつくば市立竹園西小学校の児童の皆さん先生方のご協力のもと開催できました。竹園西小学校の皆様、ご支援いただきましたつくば市長様、つくば市教育委員会の皆様に心より御礼申し上げます。当財団では「学校での突然死ゼロを目指して～小学校からの教諭による救命教育の推進～」を重要な活動目標とし、各界から自由にご参加、議論ができる場を設けようと昨年度からSchool部会フォーラムを開催してまいりました。学校内での児童生徒死亡事故は、突然死が圧倒的に多く死因の第1位です。でも、このことは十分知られておらず、その名のとおりに「突然」の不幸な出来事として受け止められてきたのです。一方、わが国では2004年にAEDの市民使用が解禁され、胸骨圧迫と組み合わせることで多くの命が救われることが明らかになってきました。実際、学校での突然死も1980年代に比べ、近年は1/5ほどに減少しています。でも、その中にもまだ、救えたかもしれない命が含まれているのです。新しい学習指導要領では、中・高等学校の保健体育科において指導内容が強化されましたが、小学校にはまだ規定がありません。救命は「すぐにやる。誰もがやる。みんなでやる」がキーワード。小学校段階から、「いのちの大切さ」を学ぶ一環として、心肺蘇生やAEDの大切さと方法を教える「救命教育」を実施すべきです。たとえうまくできなくても、重要性を学んでいれば、大人に知らせAEDを持ってきて手伝うなど、子供達は「命のバトンの第一走者」になってくれるはずです。事実、小学生が活躍する救命事例が生まれています。「学校での突然死ゼロ」は夢ではありません。皆様のご支援をお願いいたします。

一般財団法人 日本AED財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階

TEL 03-3253-2111 FAX 03-3253-2119



2019年2月16日(土)、つくば市立竹園西小学校にて第2回 School部会フォーラム 「学校での突然死ゼロを目指して～小学校からの教諭による救命教育の推進～」を開催し、当日はつくば市長 五十嵐 立青氏にも出席いただき、約220名の参加者を得た。

初めに、つくば市長 五十嵐立青様から開会の挨拶と、今後のつくば市における救命教育に関する展望について講演いただいた。茨城県では、倒れるところを目撃された心停止傷病者への心肺蘇生を実施する割合が全国平均より低く、また社会復帰率も低くなっている。つくば市では子供達への救命教育に力を入れており、茨城 PUSHと協力して市内の小・中学校で救命教育が活発に行われており、PUSH（心肺蘇生授業）を学んだ子供達が大きくなり全国各地で活躍することで、つくばだけでなく茨城県そして全国の救命率向上に貢献したいと考えている。そのため、本年4月からつくば市独自の教育カリキュラムである「つくばスタイル科」にPUSHを正式に導入し、さらに広げていきたいと訴えた。

学校でPUSHを学んだ子供達やその親御さんへと、この活動を点で終わらず線として全国につなげる流れをつくることが大切であり、次に広がる流れをつくることで、「学校での突然死ゼロ」に向かうと熱く語った。



つくば市 五十嵐 立青市長

第1部では、竹園西小学校5年生の児童達に向け、担任教諭の久保絵美先生と養護教諭の佐藤直子先生による救命教育の公開授業が行われた。授業はPUSHコースのDVDを使用して行われ、児童達は胸骨圧迫をすることや、AEDを使用することの大切さを知り、「あっぱくん」を使って胸骨圧迫の方法とAEDの使い方を学んだ。



公開授業の様子



授業終了後、児童達からは「最初は(心肺蘇生は)自分にはできないことだと思っていたけど、授業を受けて自分にもできるんだ、自分もやっていいんだ、ということをつんだ」、「これから、倒れている人がいたら積極的に声をかけてみたいと思った」という感想があがった。

**あっばくんを使用し、
胸骨圧迫の練習をする児童たち**



公開授業に続いて開かれたシンポジウムでは、最初に座長で本財団減らせ突然死プロジェクト実行委員の立川法正医師（筑波記念病院救急科）が、財団の理念や活動の内容を紹介。立川医師は、つくば市教育委員会と連携し、3年前から教師を対象にしたPUSH講習会の開き方講座を開催し、教えるプロである教師による救命教育の実現を目指して取り組んできた経緯を報告した。

続いて、公開授業を担当した竹園西小学校の久保絵美教諭が、これまでにPUSHコースを受けた児童へのアンケートの結果を報告。9割前後の児童が、授業を通して心停止の意味や胸骨圧迫、AEDの使い方をそれぞれ「理解できた」と答えたほか、目の前で人が倒れたらどうすべきかを具体的に記述し、「授業を通して何をすべきかが分かった」という感想が多かったことを紹介し、「PUSHコースは、教えやすく誰でも教えられる」と話した。

つくば市教育局教育指導課の岡野知樹さんは、つくば市では小学校中学校の9年間を貫く「つくばスタイル科」というカリキュラムがあり、救命教育を「健康・安全」の単元に位置づける予定だと説明。そして、倒れている人に関わることはいじめや相手を思いやる心、そして人権意識の向上につながると強調した。



つくば市教育局教育指導課 岡野知樹さん

このあと、2011年9月にさいたま市の小学校で、1000メートル走を走り終えた直後に倒れ、救急車の到着までAEDなどの救命処置が行われないまま亡くなった桐田明日香さん（当時6年生）の母親寿子さんが講演。明日香さんの事故は、AEDが設置されるだけでは命が救われないことを示していて、事故を教訓に「呼吸があるかどうか『分からない』場合は、胸骨圧迫を行いAEDを使う」という「ASUKAモデル」が作られた。講演の中で桐田さんは「AEDは診断する機能があり、間違ってショックがかかることはありません。使うことで病状を悪化させることもありません。空振りしてもOKという気持ちで使ってほしい」と訴えた。

また、明日香さんが亡くなった当時のさいたま市教育長で本財団理事の桐淵博さんは、明日香さんの事故後さいたま市では「判断に迷ったらAEDをつける」という意識が醸成され、学校などの教育施設でAEDが使われるケースが急増し、少なくとも4人が救命されたことを報告した。そして学校では、子供が第一発見者になる可能性が高く、発達段階に応じた救命教育を小学生から行うことで、学校での突然死をゼロにしていこうと呼びかけた。

**桐田 寿子さん**

最後に、文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画 共生社会学習・安全課 吉門直子さんから、新しい学習指導要領での心肺蘇生法やAEDの位置づけについて説明。小学校では規定されなかったものの、中学校では「実習を通してできるようにする」と大きく進んだ記述になっていて、吉門さんは「学校で安全教育を学んだ子供が大人になると、倒れた人を見かけたら迷わず心肺蘇生ができるようになる。そういう社会を目指したい」と、救命教育の重要性を強調した。

**文部科学省 吉門直子さん**

ご寄付のお願い

いつ、どこで、誰に起こるかわからない突然死を救うには、全国レベルでの取り組みが求められます。ところが残念なことに救急車が現場に到着するには平均8.6分かかると言われます。心停止の場合、それでは九死に一生を得ることも困難です。手遅れを補う唯一の手段が現場の一般市民による応急手当なのです。たまたま居合わせた素人の市民が勇気を振り絞って手を差し出せるかどうか、そしてすぐにAEDを使えるかどうかが生死を分けます。

そのような市民への協力をいったい誰が促し、その実現のための環境を誰が整えていけばいいのでしょうか。待っているだけでは何も変わりません。それを積極的に変えていくという公的な使命を担うのが日本AED財団であると考えています。

世の中の仕組みを変えていくためには、各方面への働きかけだけでなく、多くの方々に命の大切さを説き、救命が可能なことを伝え、それを実践できるように教育、講習、啓発などを推進していかなければなりません。

日本AED財団は平成28年7月に発足しましたが、目的をかなえるだけの資金がまだまだ足りません。この活動は皆様のご理解とご支援なくして遂行できません。是非とも私どもの活動にご賛同いただき、ご支援賜りますようお願いいたします。貴重な命を救うために。

ご寄付は随時お受けしており、金額はいくらでも歓迎します。なお、継続してご支援いただける場合には、支援会員の制度もございますので、お問い合わせください。

一般財団法人 日本AED財団 御中

(申込日) 平成____年____月____日

貴財団の趣旨に賛同し、下記の内容により寄付いたします。

ご芳名

ご住所 _____

〒

(電話)

(FAX)

(Email)

寄付金額 _____

金

円

振込人名(カタカナ)

振込予定日 平成____年____月____日頃

【お振込先】金融機関名：みずほ銀行 東京都庁出張所(777)

口座番号：普通預金1065036 ザイ)ニホンAEDザイダン

振込先名義：一般財団法人 日本AED財団

※本用紙をご提出いただく際は以下のFAX番号までのご送付をお願い申し上げます。

一般財団法人 日本AED財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目7-13 山手ビル3号館1階

TEL 03-3253-2111 FAX 03-3253-2119

E-mail info@aed-zaidan.jp

HP <http://aed-zaidan.jp/>



日本AED財団